

街角には郷愁が漂う

シリーズ 街並み再見 3

旧街道のたたずまいを感じる 良福寺辺り

◆奈良盆地の代表的な 風景が広がる

国道168号から昔の旧街道と思われる道筋をたどって行きます。小さな川が流れ、橋を渡って道は北へと向かっています。

この川は初田川といって、隣の當麻町・石光寺の方から流れて来ています。川に沿って東へといくと、阿弥陀橋があります。この橋はその普通行人たちの安全を祈願して造られたと伝えられています。橋のたもとにある石は、古代の石棺と石室の天井石といわれています。いずれもすぐ北にある狐井城山古墳から出たものらしく、かつては橋として利用されていたといえます。そこからちよつと東へいくと、恵心僧都誕生の地といわれる所があります。石碑は住宅に囲まれながらも、ここですよとまるでものをいっているように建っていました。

さきほどの道を北へ。左手に小さなほころがあつて、おびやかすように隣に大きな石碑が建っています。この付近から道に沿って良福寺の集落が始まっています。

良福寺は狐井と狐井街道によって結ばれていますが、その境には狐井城山の古墳があり、それがちよつと峠のような感じですが、良福寺という地名から、昔はおそらくその名の寺があつたと思われれます。またこの辺りは奈良時代に大規模な条里制が施行された所で、ため池も多く、古墳、水田、家並みと奈良盆地の代表的な風景が広がる一帯です。

◆ふと時間のたつのを 忘れそうな家並みが続く

道の角に小さな石柱がたっていました。車避けでしょうか。それにしても、小さいながら立派に自己主張をしているような角張った



石柱です。もともとは何かの標識だったのかも知れません。黒い壁の家が続いて、道側に小さく屋根が張り出しているのが可



愛らしく、台形なものも美しい。何げなく過ぎると見逃しそうな、そんな面白さを小さな屋根のあちこちに見たような気がしました。



街道からちよっと小道を入り、ふと見ると、玄関前に庭がありま
す。石組みや植え込みが塀の前に
存在して、ちよっと不思議な感じ
です。枯山水の庭が道沿いにある
ようで、通り行く人が楽しめる、
そんな庭園を拝観した気分です。

家々の間を抜ける小道には静寂
が漂って、まるで迷宮に入ったよ
うな感覚。倉庫のような建物の壁



には、昔、稲刈りの後、稲を干し
た木材(稲木という地方もある)が
掛けられています。この付近の
水田で使われたものでしょう。現
在は機械化が進んで出番が無くな
ったのかも知れません。ちよっと
寂しそうです。

角を曲がると、西方寺という小
さなお寺がありました。土塀が参
道に沿うように続いて、遠近感を

無くす構図になっていました。小
道は家並みの中を続いて、牛舎の
側を通り、再び家並みの中へ。よ
うやく、街道へと出ました。する
と目の前には、阿日寺の看板がか
かっています。

◆阿日寺から狐井へと 街道の面影を探して

阿日寺は街道からちよっとそれ
て石段を上る。すこし高みになっ
ていて、その裏手からは二上山
がきれいに見えます。ここは浄土
教のすぐれた著作といわれる「往
生要集」を生み、多くの伝説に包
まれた恵心僧都(源信)ゆかりの
寺といえます。恵心僧都は大変両
親思いであったと伝え、そこから
無病長寿、安楽往生の信仰を集め
ています。俗に「ボックリさん」と
いって、全国から大勢の信者たち
が参詣に訪れます。

境内には石塔が庭木の間に見え
て、反り返った屋根の本堂が悠然
とした風情を漂わしています。仏
像を始め、この寺には貴重な文化
財があることでも有名です。

阿日寺の石段を戻り、街道を北
へ。左手に阿日寺の裏手へ回る小
道がありました。そこで家の塀沿
いに石が行列しているのが見えま
した。二つの大きな石を先頭に二
十個位が整然と並んでいるようで、
メダカの学校を思い出し、思わず
ほほ笑んでいました。素人目にも
花崗岩は分かりましたが、他の石
の種類は判断がつかせませんでした。

何のためか分かりませんが、まる
で石たちが洒落では無いのですが
意志をもっているかのように整列
している光景には、思わず眼を奪
われてしまいました。



街道は狐井の方へと続いていま
す。道は少し上り勾配になり、右
手に雑木林が見えて来ます。こん
もりとした小山はコの字になった
堀池を抱えた古墳です。少なくな
った水面には枯れ葉が浮かび、小
山の影がひっそりと落ちていまし
た。

この古墳は狐井城山古墳といわ
れ、香芝市最大の五〜六世紀に造
られた前方後円墳です。この辺り
はすでに狐井地区となっています。
ちよっと寂しい峠道の雰囲気漂
わせながら、道はまっすぐ北へと
向かっています。